

## 2013（平成25）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

- 一 文学作品の翻訳者は、原文テキストの意味内容・概念が独立自存せず、常に表現形態と一体化して作用すると理解すべきだから。
- 二 原文の微妙な表現形態を気づかわず、翻訳者が了解した意味内容を母語で置換しても、翻訳とは程遠い作品となるということ。
- 三 翻訳者は、原文の表現形態を母語の文脈に取り込むために、諸々に食い違う母語の表現形態との和合・調和に努めるということ。
- 四 原文と母語との和合・調和は決して到達・実現されないので、翻訳は母語の枠組みや規範を破り、変えるところまで進みうるから。
- 五 翻訳には原文の意味内容を達意の母語にし、原文の表現形態を尊重するという相反する要請がある。翻訳が言語・文化・宗教・慣習の複数性、違いや差異に細心の注意を払いつつ、母語と異言語との和合・調和を図るなら、この矛盾する要請に応えねばならないから。（一二〇字）
- 六 a 首尾 b 逐語 c 摩擦 d 促 e 示唆